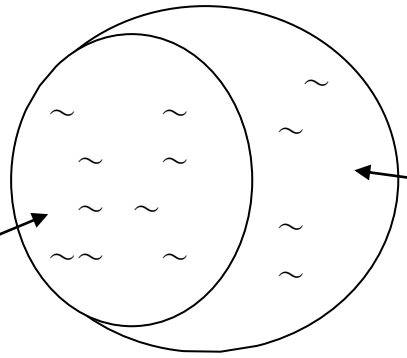
理論と確証

１、理論とは何か

言明の集まり



例　社会心理学（認知不協和仮説）

個別：無償で退屈な実験に参加した被験者は、　この実験は面白いはずだ

その実験を肯定的に評価した　　葛藤

一般：人は態度間の葛藤を減らそうとする　　つまらない

理論についての２つの見方

（１）　統語論的見解

＊統語論（構文論）syntay　　意味論　semantics

文法に相当、有意味な表現の確定　　個々の表現に意味を与える

単語＋構成規則

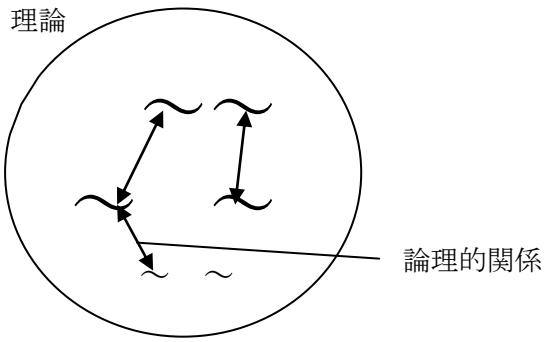
〇太郎は歩く　　表現の意味ぬきに可能

×は太郎歩く

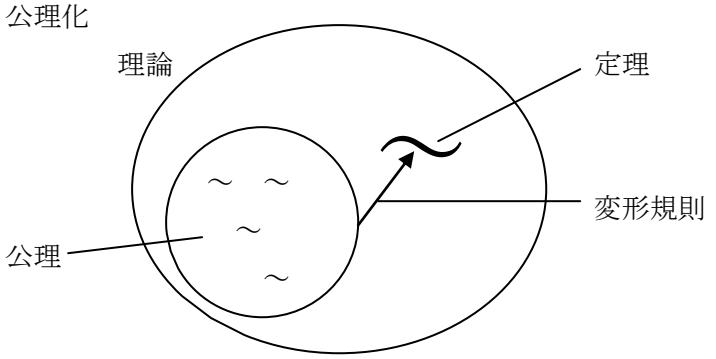
主な論者：カルナップやヘンペル（論理実証主義者）

理論の論理構造はその事実的内容から分離できる

＝純粋に統語論的に確定できる



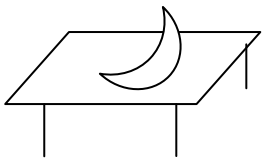
公理化



公理体系の各言明に意味を与える

観察言明：観察可能な事実と対応づけることで意味を与えられる

「バナナがテーブルの上にある」→

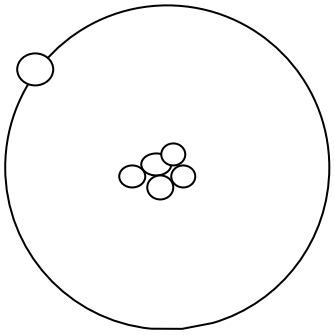


理論言明：観察言明の集まりに翻訳される

「原子は原子核と電子からなる」

問題点

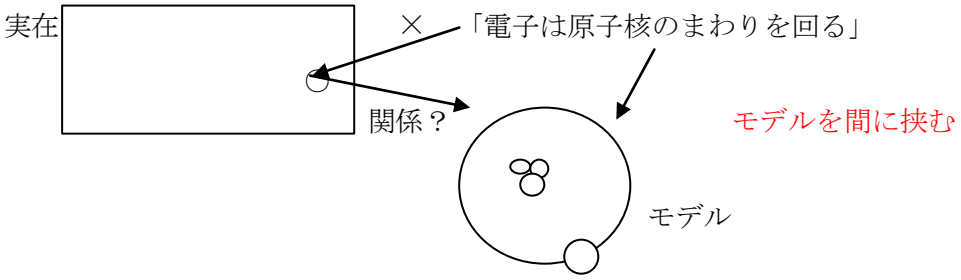
そのような翻訳は不可能だ



（２） 意味論的見解

主な論者：van Fraassen, Suppe

理論は実在のモデルとそれを記述した言明からなる



２、確証のパラドクス

理論は事実によって確証される

――一見、自明に見えるこの考えには、重大なパラドクスがある

（1） カラスのパラドクス

仮説 H1：全てのカラスは黒い

確証に関する２個の条件

全ての A は B である

実例（確証例）：A であって B であるもの

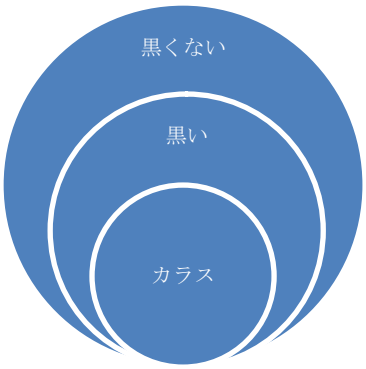
反例：A であるのに B でないもの

中立例：A でないもの

等値性原理

H≡H’

実例



仮説 H2：全ての黒くないものはカラスでない

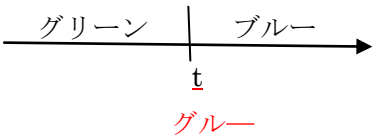
実例：黒くなくてカラスでないもの

例えば、白い靴、黄色いバナナ、・・・

「全てのカラスは黒い」の実例になってしまう！

（2） グルーのパラドクス

N.グッドマン



仮説 H1：全てのエメラルドはグリーンである

H2：全てのエメラルドはグルーである

証拠：t までに観察されたエメラルドは全てグリーンだった

次に観察されるエメラルドもグリーンだろう

（H1 が支持される）

次に観察されるエメラルドはグルーだろう

（H2 が支持される）＝ブルー

同程度の確からしさ